

「写真の未来が、始まる。」

桑田直宏

このキャッチコピーは、キヤノンの EOS「R」フルサイズミラーレスカメラ CM です。

デジタルカメラになって感じるのは、いつも最新のカメラとレンズが天体写真では最高の画像になるという事実です。果たしてこの EOS「R」が天体写真に向いているかどうかは発売されたばかりでわかりませんが、可能性を信じて衝動買いをしました。

来年 5 月のオーストラリア南天撮影旅行用のカメラです。



2014 年のニュージーランド遠征には、当時発売されたばかりのキヤノン 6D と 60Da で撮影しました。60Da は赤い星雲がよく映る天文仕様になっているキヤノンの純正カメラです。2012 年 4 月発売から 6.5 年になりますが新しい天文用のカメラは出る気配はありません。大杉さんが所有され

ているニコン D810A と画像を比較するとその差は歴然としているので、乗り換えも考えましたが、これまでのレンズ資産が全て無駄になってしまいます。

私の天体写真の方向は、「最高の天体写真」の追求ではなく、「景色を含めた天体写真」に力を入れることにしているので、このカメラの可能性を感じて購入しました。

6年前発売の6Dと比較すると、常用ISO感度が25600から40000とさらに良くなっている。一番惹かれたのが電子ファインダーだった。これで夜空を見ると、肉眼で見えない星が見えてピントまでオートフォーカス出来ることにびっくりした。

それ以上にRを魅力的にしているのがレンズ。R専用の24-105mm F4レンズが発売されたのです。レンズの性能を最大限に発揮できるようにマウントを大きくし、ショートバックにしたとのこと。さらにレンズの収差情報を瞬時にカメラ側に伝達できる仕組みになり、最高の画質に瞬時にしてしまう機能をそなえているとか。

キヤノン曰く。見たこともないような写真が撮れる！

天体写真はまだ撮っていないが、その雰囲気は感じている。

天体写真特性に絞った性能比較

メーカー	キヤノン EOS R	ニコン Z7	ソニー α 7 III
有効画素数	3030 万画素	4575 万画素	4240 万画素
ファインダー	369 万ドット	369 万ドット	387 万ドット

常用 ISO 感度	100～40000	64～25600	100～32000
検出範囲	EV－6～18	EV－1～19	EV－3～20
可変モニター	バリエアングル	チルト	チルト
動画	4 K	4 K	4 K
タイムラプス機能	○ 4 K	○ 8 K	×
防塵・防滴	○	○	×
重量	580 g	585 g	565 g
価格	237,500 円	393,660 円	328,500 円